



電子ジャーナルの効果的サービスのために

児玉 関

I. はじめに

臨床に必要な文献を迅速に提供することは、病院図書館にとって重要な役割のひとつである。そのためにはできるだけ多くの雑誌を所蔵することが求められよう。しかし病院図書館の場合、診療のニーズに合わせた資料を揃えることは、予算的にもスペース的にも容易なことではない。また文献検索の主要なデータベースである PubMed では、プリント版の出版前や出版直後の雑誌なども検索できるので、当然そのような最新文献の入手要望も出てくる。このような状況下では、プリント版の雑誌だけでは、利用者のニーズに応えることは困難である。データベースがインターネットのメリットを十分に活用して提供される一方で、雑誌が依然プリント版のままでは、折角入手した最新情報も活かすことはできない。

そこで本稿では、病院図書館員が電子ジャーナルを上手に活用するために知っておくべき、基本的、具体的、かつ、実践的な知識として、電子ジャーナルそのものを揃えるための「購読」と、電子ジャーナルを使った効果的なサービスを行うためになくてはならない「フルテキストリンク」「ポータル」の3つに焦点を絞り解説をする。

II. 電子ジャーナルの購読

雑誌を購読する際に、現代はメディアを選べる時代になった。そして電子版を購入する際に

は、さらにいくつかの種類を選べるようになった。これは印刷コストや配送コストのかかるプリント版では、まず考えられなかったことである。ここでは電子ジャーナルの「単体購読」「セット購読」「コンソーシアム」について述べる。

1. 単体購読

電子ジャーナルのほとんどは、プリント版と同じように単体として購入することができる。表1は主要な出版社の単体購読価格である。Wiley 社の場合、シングルサイトであれば、Basic Access License (BAL) が適用され、同時アクセス数は1、統計データの提供はないが、電子版もプリント版と同じ価格で購読できる。Springer 社は、これまで電子ジャーナルだけの購読はなかったが、2003年から始めるようになった。シングルサイトであれば、プリント版の郵送料を除いた価格で、同時アクセス数の制限もなく利用できるのも、かなりユーザーフレンドリな価格設定である。Blackwell 社の電子ジャーナルはプリント版の1割引きの価格で購読できる。Elsevier 社の場合は ScienceDirect というプラットフォーム上で提供されるため、その利用料も含まれて若干高くなるが、その替わり同社の雑誌約1,600誌の抄録や本文を検索できるなどのメリットがある。

同じ電子ジャーナルでも、アグリゲーターと呼ばれるベンダーやその代理店から購読する方法もある。OCLC ECO や Journals@OVID は、出版社からの電子情報を自社で電子ジャーナル化して、サーバーを通して提供する。これらの雑誌は、出版社が違っても「同じインター

表1. 主要出版社の電子ジャーナルの価格

	電子版の購読価格	病院向けセットもの・コンソーシアム
Blackwell	<ul style="list-style-type: none"> • プリント版の90% • プリント版を買えば、当年と過去1年の電子版は無料 	<ul style="list-style-type: none"> • 病院向け Synergy
Elsevier	<ul style="list-style-type: none"> • プリント版の90%+コンテンツ料金10~20%+ SD 基本料金 • プリント版を買えば、Web Edition は過去12ヵ月分が無料 	<ul style="list-style-type: none"> • ScienceDirect (ホスピタル・パッケージは中止)
Springer	<ul style="list-style-type: none"> • プリント版に比べると郵送料 (ポストエッジ) 分だけ安い • プリント版を買えば、同時アクセス数3で無料 (但しシングルサイトのみ) 	<ul style="list-style-type: none"> • 2004年に向け、検討中
Wiley	<ul style="list-style-type: none"> • BAL (Basic Access License) : プリント版と同価格 • プリント版とのコンビネーションは105% (但しシングルサイトのみ) 	<ul style="list-style-type: none"> • InterScience EAL (Enhanced Access License) ・医図協、薬図協への提案に参加可

フェースで見ることができる」「横断的に全文検索できる」「煩雑な契約をひとつで済ませることができる」「過去に契約した期間についての継続的なアクセスを保証する」などのメリットがある^{1) 2)}。ただし、単体での価格は出版社から直接買うものより安くなることはない。

雑誌によっては電子化されることで価格が非常に高くなる場合もある。Science や Nature の電子版は購読機関に所属する利用者数によって価格が設定されるので、プリント版の数倍もの価格になる。ただし Nature には、プリント版に数万円上乗せすることで、同時アクセス数は1だが、電子版が使える^{※注)}。つまり電子ジャーナルを購読する時は、便利というだけでなく、費用対効果も考える必要がある。

HighWire Press は米国のスタンフォード大学による電子ジャーナルのプラットフォームで、学会系の雑誌379タイトルが提供されている。HighWire Press は、学術コミュニケーションが抱える問題に対して、電子ジャーナルを使ったソリューションを提供している³⁾。学術雑誌の価格高騰についても、プリント版より安く提供したり、一定期間後には無料公開するなどの方法で対応している。

2. セット購読とコンソーシアム

電子ジャーナルには、プリント版のような物流コストは発生しない。したがっていくつもの

雑誌をまとめて割引いて売るセットが登場するようになった(表1)。自社出版の雑誌をまとめた出版社型のセットには、Elsevier 社の ScienceDirect、Blackwell 社の Synergy、Springer 社の LINK、Wiley 社の InterScience などがある。

またいくつかの出版社の雑誌をまとめたアグリゲーター型のセットとしては、ProQuest 社の ProQuest Medical Library、EBSCO 社の EBSCO host Biomedical Reference Collection などがある。セットは雑誌を個々に買うより格段に安い価格で利用でき、タイトル数を増やすことも可能である。また本来の出版社では電子化していない雑誌が、このセットの中で提供されているものもいくつかある。これらの商品も電子ジャーナルの範疇と考えられるが、提供元は、「データベース」または「ドキュメント・デリバリー」という認識でいる場合が多い。確かにアグリゲーター型のセットでは各タイトルを購読したことにはならない。出版社からの提供条件が変わると契約途中でもサービス内容が変更されることもあるので、注意が必要である。

セット購読をする際、いくつかの図書館が集まってコンソーシアムを組むことで、さらに割引きが適用されることがある。2003年、日本医学図書館協会や日本薬学図書館協議会に対し

て、15以上のコンソーシアムが提案された。この提案の中には、図書館側からの要望を受けて提案されたものもある。コンソーシアムの可能性については、図書館側から積極的に打診することも有効である。しかし安易なコンソーシアムの形成では、逆に出版社のための集金機構と化す可能性もあり、コンソーシアムを形成する際には、出版社と常にしっかりとした交渉をすることが必要である。

コンソーシアムに参加する際に気がかりなのは、離脱することと思われる。将来、参加できなくなった時に、自館が辞めたことで価格条件が変わり、残った図書館に迷惑をかけることになるかもしれないという気持ちから、コンソーシアムを消極的に捉える向きもあるようである。コンソーシアムと言えども、雑誌に根ざして価格を設定している以上、雑誌が値上がればコンソーシアム価格も値上がりする。確かにその結果、コンソーシアム参加を継続できない場合もあるだろう。しかしそれは図書館の持つ予算が異なるのだから当然であり、それに対してお互いを責めるよりは、値上げした出版社に矛先を向けるべきではないだろうか。日本の場合、幸か不幸か、協会が加盟館に強制するコンソーシアムというものがない。コンソーシアムへの参加に対しては各館の自由な判断に委ねられている。したがって病院図書館でも離脱することを心配せずにコンソーシアムを積極的に活用すべきだと思う。

Ⅲ. フルテキストリンク

データベースを使って欲しい文献を探した時、その場で原文献を見ることができるとは、電子ジャーナルのメリットのひとつである。これはまさに電子図書館を具現化したひとつの形と言えよう。世界的な医学データベースであるPubMedには、LinkOutという自館が使える電子ジャーナルへのフルテキストリンクのサービスがある。これは米国外の図書館でも利用できるサービスである。

LinkOutのサービスを受けるためには、あらかじめNCBI (National Center for Biotechnology Information) に参加の申込をする必要がある⁴⁾。NCBIに参加を認められると、ユーザーネームとパスワードが送られてくるので、それを使ってリンクさせたい雑誌情報を登録し、専用のURLでアクセスする。登録後は1～2日で利用できるようになる。LinkOutに登録できる雑誌は3,944誌あり⁵⁾、同じ雑誌でも購読先によってリンク先も異なるが、LinkOutは、それについても対応している。

LinkOutに参加している図書館は、全世界で742館あり⁶⁾、米国外の図書館は179館、そのうち33館が日本の図書館である。日本の病院図書館の参加は2館であるが、ひとつは沖縄の米国海軍病院なので、純然たる日本の病院図書館としては藤沢市民病院1館だけである。電子ジャーナルを積極的に購読している病院図書館は、LinkOutに参加してみてもはどうだろうか。ちなみに藤沢市民病院が利用できる電子ジャーナルへリンクしている文献数は、410件である。なお、ここで示したLinkOutに関するデータはすべて2003年6月18日現在のものである。

Ⅳ. ポータル

ポータルとは“入口”の意味で、ブラウザを立ち上げた時に最初に開かれるよう登録されているホームページをポータル・サイトと言う。最初に開かれるホームページには、利用頻度の高いものを登録することが多い。そのページに必要な情報へのリンクが張られていれば、利用者の便利度は増す。

図書館が作る自館のホームページは、利用者のための医学情報ポータル・サイトと言える。したがって、利用者が使えるオンライン・データベースや電子ジャーナルなどをまとめたホームページを作って提供することは、重要なサービスのひとつである。

ホームページの作成は、ワープロと同じような感覚でできるソフトもあり、決して難しいこ

とではない。自分で作ることのメリットは、レイアウトや表示するデータも自由にデザインできることにある。しかし、利用できる雑誌の変更やタイトルチェンジ、リンク先 URL の変更など、自分でデータ管理をしなければならない煩わしさもある。そこでここでは、電子ジャーナル管理に有効ないくつかのポータル・サービスを紹介する。

1. Knowledge Worker

Knowledge Worker は丸善が提供する有料の学術ポータルである。元は同社のオンライン書籍発注システムに、British Library (BL) が所蔵する約2万点の雑誌コンテンツ情報を加えたものだが、さらに電子ジャーナルの管理機能も備えている⁷⁾。丸善から購読している電子ジャーナルは、コンテンツ情報を経由して、フルテキストへリンクしている。このほか、購読しているすべての雑誌のリストをつくり、電子ジャーナルや OPAC へリンクを張ることもできる。

2. K-Port

K-Port は紀伊国屋書店が提供する学術ポータルである。同社の外国雑誌 ACCESS サービスや、代理店となっているデータベースサービスなどの契約ユーザーであれば、無償で利用できる⁸⁾。ここにある電子ジャーナルの管理機能は、同社がもつリンク情報を利用できるほか、独自のリンク先を登録することも可能である。Knowledge Worker と同様、BL の雑誌コンテンツを利用することもできるが、その場合は別途費用がかかる。ただし、K-Port 特約出版社 (Kluwer 社、Springer 社ほか) の目次・抄録データは無料でサービスされており、検索結果から紀伊国屋書店を通して、購読している雑誌のフルテキストリンクを利用することができる。

3. E-J Solution

E-J Solution は、ハザン商會が提供する有料の電子ジャーナル管理システムである。代理店に依存せずに、自館で使える電子ジャーナル情報が等しく登録できて、しかも「自動ログイン」

や「サイト情報管理」「アクセス統計」などの機能が利用できる⁹⁾。「自動ログイン」機能を使うと、電子ジャーナルのログインの際に ID とパスワードを要求されるサイトについても、その要求をシステムが解決してくれるため、利用者は ID・パスワードを意識することなくアクセスできる。電子ジャーナルの動態があっても、「サイト管理情報」として E-J Solution が対応してくれる。「アクセス統計」機能では、それぞれのジャーナル・サイトへのアクセス統計を知ることができる。ただし、無料で使う電子ジャーナルの場合、利用統計は提供されないことが多い。E-J Solution が提供する「アクセス統計」は、サイトへのアクセス数だけで、実際に論文を見た数とは言えないが、図書館で雑誌を手にした回数と同程度の価値はあり、利用傾向を知る手がかりになる。他にはない機能を提供するという点で、今後の動向に注目したい。

4. Free Medical Journals

Free Medical Journals は、製薬会社の助成金をもとに作られた無料の医学情報サイトである。ここには無料で読める世界中の電子ジャーナル1,010タイトルのリンクが集められている¹⁰⁾。完全無料の雑誌は851タイトル、1年以内で無料になる雑誌が108タイトル、2年以内が31タイトル、その他期間や記事限定などのタイトルが20タイトルある。無料誌の中には、HighWire Press や BioMed Central の無料誌も含まれている。言語別にみると、英語が723タイトル、その他の言語が287タイトルである。このサイトに自館の情報を付与することはできないが、カテゴリーが医学および周辺領域に限定されている点と、無料誌を網羅している点に特徴がある。契約もしていない無料のタイトルの動態を追跡することはかなり困難であるので、活用したいサイトである。

V. おわりに

以上、本稿では、病院図書館員が電子ジャー

ナルを上手に活用するために知っておくべき知識として、「電子ジャーナルの購読」「フルテキストリンク」「ポータル」に焦点をあてて解説した。「電子ジャーナルの購読」では、電子ジャーナルにはバリエーションがあり、その内容を知った上で自館の購読状況やニーズによって選択すること、コンソーシアムを活用することを述べた。「フルテキストリンク」では、PubMed の LinkOut を例に対象雑誌数や参加図書館数を示した。また電子ジャーナル・アクセスリストとなる「ポータル」サービスとして、いくつかのサービスを紹介した。これらは電子ジャーナル活用の参考になれば幸いである。

ひとりで何役もこなさなければならない一方で、予算や書庫に制限の多い病院図書館では、さらに個々の図書館の事情から、さまざまなニーズに応えなければならず、電子ジャーナルについても解説をひとつ読むだけではまかないきれないところがあると思う。しかし、電子ジャーナルは始まったばかりのサービスであり、まだ完成されたものではない。自館のニーズに合わないからといって諦めずに、利用者と経営者を説得しながら出版社とも交渉し、さらにまわりの図書館員とも協力して、自分たちのスタイルに合ったサービスの実現を目指してもらいたいと思う。これは大学図書館であろうと病院図書館であろうと同じである。

注) Nature 本誌のシングルアクセスの価格は、2003年はプリント版×1.4倍だったが、2004年はプリント版×2.17倍と大幅な値上がりが見えられている。また Nature Research 誌とNature Review 誌の2004年価格もプリント版×1.46～1.49倍となり、プリント版のほぼ半額が必要になる。

参考文献

- 1) 紀伊國屋書店. OCLC ECO FAQ. [引用2003-06-18].
<http://www.kinokuniya.co.jp/03f/oclc/ecpfaq.htm>
- 2) USACO.Journals@Ovid. [引用2003-06-18].
<http://www.usaco.co.jp/products/ovid/j@o.html>
- 3) HighWire Press.Original Prospectus. [引用2003-06-18].
http://highwire.stanford.edu/about/original_info.dtl
- 4) 諏訪部直子: PubMed の検索結果に自館契約電子ジャーナルへのフルテキストリンクを表示させる方法. 医学図書館. 2002 ; 49 (1): 90-91.
- 5) NCBI.LinkOut Journals by Provider. [引用2003-06-18]
http://www.ncbi.nlm.nih.gov/entrez/journals/loftext_prov.html
- 6) NCBI.LinkOut Libraries by Region.[引用2003-06-18].
http://www.ncbi.nlm.nih.gov/entrez/journals/active_libraries.html
- 7) 篠田かずえ: Knowledge Worker 病院図書室の電子ジャーナル利用のためのサポート. ほすびたるらいぶらりあん. 2001 ; 26 (4): 294-298.
- 8) 佐藤高廣: 学術情報のポータルサイトK-Port. 情報の科学と技術. 2002 ; 52 (9) : 465-470.
- 9) 大塚一紀: 電子ジャーナル管理—ASPサービスによるサイト管理の実現—. 病院図書館. 2002 ; 22 (2) : 57-60.
- 10) The Free Medical Journals. [引用2003-06-18].
<http://www.freemedicaljournals.com/>